

平成 29 年 7 月 20 日  
総務省行政管理局公共サービス改革推進室

民間競争入札実施事業  
「宇宙航空研究開発機構／広報普及業務支援」の評価について（案）

競争の導入による公共サービスの改革に関する法律（平成 18 年法律第 51 号）第 7 条第 8 項の規定に基づく標記事業の評価は以下のとおりである。

記

I 事業の概要等

事 項	内 容
事業概要	宇宙航空研究開発機構、「以下、JAXA」という。）の事業及び宇宙航空分野全般に亘る広報普及活動を、国内外の幅広い層に対し、効率的、効果的かつ積極的に実施し、総合的かつ一体性をもって戦略的に推進するために必要な支援業務
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
受託事業者	一般財団法人 日本宇宙フォーラム
契約金額（税抜）	426,342 千円（単年度当たり：213,171 千円）
入札の状況	1 者応札（説明会参加＝10 者／予定価内＝1 者）
事業の目的	JAXA の事業及び宇宙航空分野全般に亘る広報普及活動を国内外の幅広い層に対し、効率的、効果的かつ積極的に実施し、総合的かつ一体性をもって戦略的に推進すること。
選定の経緯	競争性に課題があったことから、平成 25 年基本方針において選定

II 評価

1 概要

市場化テストを継続することが適当である。競争性の確保という点において課題が認められ、改善が必要である。

2 検討

(1) 評価方法について

文部科学省から提出された平成 27 年 4 月から平成 29 年 3 月までの実施状況についての報告（別添）に基づき、サービスの質の確保、実施経費等の観点から評価を行う。

(2) 対象公共サービスの実施内容に関する評価

事 項	内 容	
確保されるべき 質の達成状況	以下のとおり、適切に履行されている	
	確保されるべき水準（一例）	評価
	<p>（広報普及業務支援の全体運用管理・業務項目間連携による総合コーディネートの実施）</p> <p>・JAXA の広報事業計画等に基づき、本契約における業務項目それぞれの特徴を發揮するとともに、業務項目それぞれの連動性や相乗効果を生むために、広報普及業務全体を俯瞰的かつ横断的な視点で見渡す「総合コーディネート」の機能を果たすこと。</p>	<p>適：（総合コーディネートプランを整備し、活動の評価分析ツールの有効性を検証、実施した）</p>
	<p>（公開ウェブサイト等の運用）</p> <p>・JAXA 公開ウェブサイト、コミュニティサイト（ファン!ファン!JAXA!）の編集、運用管理について、日々の活動状況に合わせ、プレスリリースやメールマガジン、RSS などタイムリーな情報の発信を確実に行うこと。</p>	<p>適：（即時性、適時性を踏まえた運用を実施し、記者会見のライブ配信及びウェブのコメント書き込み機能の活用等を図り実施した）</p>
	<p>（各種イベント・展示の実施運用及び模型貸出対応）</p> <p>・JAXA が主催するイベント・展示等の実施、JAXA が関係する外部機関・団体との連携によるイベント・展示への出展協力、定期的な最新情報提供など、各種イベント・展示の企画から運營業務までの業務を行うこと。</p>	<p>適：（展示構成内容、展示手法の改善、展示に合わせた委託業者による独自付加企画等を実施した）</p>
<p>（宇宙機等打上げ広報活動）</p> <p>・人工衛星などの宇宙機及びロケット打上げにおいて、一般普及を目的とした各種印刷物、ビデオ等の製作及び打上げ放送並びに中継イベント等を実施すること。</p>	<p>適：（新しいインターネット配信先チャンネルの追加、打上げダイジェスト映像提供の即時化・適時化等を実施した）</p>	

民間事業者からの改善提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報普及活動に関する質の向上に関し提案を行い、JAXA コミュニティサイト「ファン！ファン！JAXA！」において、記者会見のライブ配信を実現し、国民に対して直接説明責任を果たす仕組みを構築した。 さらに、視聴者から寄せられるコメントを公開し、国民の意見・要望を拾い上げる場としても機能させた、JAXA 役職員の意識改革につながる波及効果ももたらした。</li> <li>・ 広報普及活動における業務の効率化に関し、展示物の運用管理業務において、廃棄処理候補物品や修理等要措置物品の提案を行うとともに、今後の広報活動で必要になると思われる展示物やグラフィックパネル等の提案も行い、限られた保管スペースを有効かつ効率的・経済的に運用するべく貢献した。</li> </ul>
--------------	---

### (3) 実施経費（税抜）

実施経費は、従前経費と比較して 11.6%（年平均 28,033 千円）減少している。

なお、経費の減少の多くは、宇宙機等打上延期による広報活動の減、打ち上げ機数および仕様内容の差異を要因とするため単純な比較は難しい。

従前経費	平成 26 年度の実施経費：241,204 千円
実施経費	平成 27～28 年度の実施経費（1 年当たりの平均） 213,171 千円
削減額	213,171 千円－241,204 千円＝28,033 千円
削減率	11.6%
民間事業者からの改善提案	宇宙の日 作文絵画コンテストにおけるマスメディアとの連携において、同社（朝日新聞デジタル）ウェブサイトへの受賞作品の掲載により作品集のペーパーレス化をもたらし、経費削減に貢献した。

### (4) 評価のまとめ

業務の実施にあたり確保されるべき達成目標として設定された質について、確保されるべき目標を達成していると評価することができる。

また民間事業者の改善提案について、民間事業者のノウハウと創意工夫の発揮が業務の質の向上に貢献したものと評価できる。

一方、実施経費について、従前経費と比較すると、28,033 千円（11.6%）の削減となったが、JAXA 内に設置している外部有識者で構成している契約監視委員会において「今回の実施経費の削減については市場化テストのプロセスを要因とした経費削減であるとは言い難い」と評価されており、課題が認められる。

また入札については前回と同一事業者による 1 者応札であった。前回契約での入札においては、3 者応札かつ入札資料取得者は 17 者と、多くの者が入札参加を検討する状況であったことも踏まえると、さらに積極的な改善策を講じる必要性があったものと考えられ、その点について課題が認められる。

(5) 今後の方針

以上のとおり、競争性の確保の点において課題が認められ、本事業において良好な実施結果を得られたと評価することは困難である。そのため、次期事業においては、当課題について検討を加えた上で、引き続き民間競争入札を実施することにより、民間事業者の創意工夫を活用した公共サービスの質の維持向上及び経費の削減を図っていく必要があるものとする。

平成29年6月20日  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

## 民間競争入札実施事業

### 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構／広報普及業務支援の実施状況について（案）

#### 1. 事業の概要

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下「機構」という。）の広報普及業務支援については、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」（平成18年法律第51号）に基づき、以下の内容により平成27年4月から民間競争入札により実施しており、現在実施している事業は1期目である。

##### 1) 業務内容

本事業は、機構の事業及び宇宙航空分野全般に亘る広報普及活動を、国内外の幅広い層に対し、効率的、効果的かつ積極的に実施し、総合的かつ一体性をもって戦略的に推進するために必要な支援を行うものである。

##### 2) 契約期間

平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間

##### 3) 受託事業者

一般財団法人日本宇宙フォーラム

##### 4) 実施状況評価期間

平成27年4月1日から平成29年3月31日までの2年間

##### 5) 受託事業者決定の経緯

本事業にかかる落札者の決定は、民間競争入札実施要項に基づく総合評価落札方式により実施することとしており、平成27年1月28日の提出期限までに入札参加者1者から履行証明書の提出を受け、審査した結果、要件項目を満たしていた。

平成27年2月6日に開札した結果、予定価格の制限の範囲内である、一般財団法人日本宇宙フォーラムを落札者として決定した。

#### 2. 確保されるべきサービスの質の達成状況及び評価

当機構の広報普及業務支援における民間競争入札実施要項（平成26年12月。以下「実施要項」という。）において定めた民間事業者が確保すべきサービスの質の達成状況に対する当機構の評価は、以下のとおり。

ア. 広報普及業務支援の全体運用管理・業務項目間連携による総合コーディネートの実施

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価
<p>・JAXA の広報事業計画等に基づき、本契約における業務項目それぞれの特徴を發揮するとともに、業務項目それぞれの連動性や相乗効果を生むために、広報普及業務全体を俯瞰的かつ横断的な視点で見渡す「総合コーディネート」の機能を果たすこと。</p>	<p>○<u>総合コーディネートプラン整備</u> 総合コーディネートプランを作成し、各担当者が業務全体を俯瞰的・横断的に把握するための見える化を図るとともに、コーディネーションミーティング（毎月末）を開催し、各業務項目担当者間の情報共有と作業連携を適切に実施した。</p> <p>○<u>活動の評価分析ツールの有効性検証を実施</u> JAXA を取り巻く状況、動向などを常に把握するため、活動評価・分析手段として、ウェブメディア解析ツールの導入提案があった。同ツールを用いた分析データの有効性について精査を行っている。</p>	<p>○プロジェクトや事業の進捗状況を見据えた年間スケジュールを視野に入れながら、メリハリをつけた情報発信タイミング、展開手段、対象層などを明確化することで、業務項目ごとの横の連動を各担当者が意識することができている。</p> <p>○情報の受け手は多様化しているため、対象層ごとに発信方法、表現方法などを工夫する必要があるが、分析ツールによる動向把握が有効であることがわかり、今後一層の活用が期待できる。</p>

イ. 画像映像等における各種制作・運用の実施

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価
<p>・画像・映像素材や映像コンテンツの制作・撮影、運用、保守管理の実施。</p> <p>・画像映像等の外部貸出提供窓口及び提供システム「JAXA デジタルアーカイブ」の運用（提供時に必要な画像映像の編集、加工対応なども含む）</p>	<p><u>○JAXA デジタルアーカイブシステム (WEB サイト) 利用貸出フローの図示化などの改善</u></p> <p>利用者の利便性向上のため、表示カテゴリー等の見直し、データ提供の一部オンライン化による提供時間短縮など改善を図り、アクセス数の増加に繋げた。</p> <p>・JDA サイト画像映像データへのアクセス増</p> <p>平成 27 年度：1,599 万件 平成 28 年度：1,363 万件 ※本契約前の平成 26 年度は 994 万件であり、1.5 倍程度を示す。</p> <p><u>○ショート映像コンテンツ制作体制の構築（新規）</u></p> <p>ソーシャルメディアなどネットによる映像視聴環境の変化、利用者のニーズを踏まえ、映像コンテンツの抜本的な見直しを実施。短い尺の映像とすることで、見やすさの向上、興味の導入、ネットでの拡散などに取り組んだ（21 本を制作。一月あたり 2 本制作ペース）。</p>	<p>○画像・映像素材をより充実させるために、素材撮影時や速やかに公開するための課題整理、対応方策などの検討調整を継続的に行っている。その結果、徐々に JAXA 関係部署の理解が進みつつあり、撮影後速やかな素材公開・提供が実現し始めている。</p>

ウ. 公開ウェブサイト等の運用

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価									
<p>・ 1) JAXA 公開ウェブサイト、コミュニティサイト（ファン!ファン!JAXA!）の編集、運用管理について、日々の活動状況に合わせ、プレスリリースやメールマガジン、RSS などタイムリーな情報の発信を確実に行うこと。</p>	<p>○即時性、適時性を踏まえた運用を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ページビュー数 <table border="1" data-bbox="584 293 1031 490"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公式サイト</td> <td>2,068 万</td> <td>1,909 万</td> </tr> <tr> <td>コミュニティサイト</td> <td>893 万</td> <td>712 万</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・ 記者会見のライブ配信実施 28 年度より、記者会見の様態をネットライブ中継（原則）することとした。</li> <li>・ ウェブのコメント書き込み機能の活用 ミッション不具合時、コミュニティサイトに最新情報を逐次掲載するとともに、一般の方からの意見や要望を拾い上げる場として「記事へのコメント書き込み機能」を活用。世論の反応分析に役立てた。</li> </ul>		平成 27 年度	平成 28 年度	公式サイト	2,068 万	1,909 万	コミュニティサイト	893 万	712 万	<p>○情報の発信側と受け手側の両方において重要な情報ツールとなっているウェブサイト、インターネットをさらに効果的に活用するため、ソーシャルメディアとウェブコンテンツの連動企画や、外部媒体との連携などを工夫し、話題の拡張を積極的に図っている。</p>
	平成 27 年度	平成 28 年度									
公式サイト	2,068 万	1,909 万									
コミュニティサイト	893 万	712 万									
<p>・ 実施要項 2 (2) ②エ. の公開ウェブサイトについては、ウェブ上で実施するモニター調査の結果、6 割以上から「とてもよい」「よい」等好評価を得ること。モニター調査については別紙 5 【1】の「(1) 現在のサイトの内容はわかりやすいですか?」「(2) サイトのデザインやレイアウトはいかがですか?」「(4) サイト内の情報は探しやすいですか?」において<u>上位 2 段階で 6 割以上</u>を達成すること。</p>	<p>○アンケート結果</p> <p>2017 年 2 月 21 日から 3 月 10 日まで実施したオンラインアンケートの結果、対象となるすべての設問について 6 割以上の好評価を達成した。</p> <table border="1" data-bbox="584 1258 1104 1648"> <thead> <tr> <th>設問</th> <th>上位 2 つの割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在のサイトの内容はわかりやすいですか?</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>サイトのデザインやレイアウトはいかがですか?</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>サイト内の情報は探しやすいですか?</td> <td>61%</td> </tr> </tbody> </table>	設問	上位 2 つの割合	現在のサイトの内容はわかりやすいですか?	71%	サイトのデザインやレイアウトはいかがですか?	64%	サイト内の情報は探しやすいですか?	61%		
設問	上位 2 つの割合										
現在のサイトの内容はわかりやすいですか?	71%										
サイトのデザインやレイアウトはいかがですか?	64%										
サイト内の情報は探しやすいですか?	61%										



エ. 広報用パンフレット等印刷物の企画制作・運用

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価
<p>1) 広報用パンフレット等印刷物全体の制作計画に関する企画立案を行い、それらに基づき新規制作・改定増刷を実施すること。</p>	<p><u>○他媒体との連動強化</u> 印刷物としての役割に終わらず、ウェブサイトへの誘導を図る仕組みや映像コンテンツの連動を強化した。</p> <p><u>○印刷物の利用者ニーズ、利用ケースの反映</u> 利用者のニーズを踏まえて、JAXA 紹介パンフレット及び JAXA 年間活動紹介リーフレットの制作仕様の抜本的な見直しを受け、PDCA サイクルを踏まえた構成内容最適化などに対応した。</p>	<p>○印刷物が使われる状況や目的を改めて整理し、利用者の使いやすい媒体となるような企画提案がなされている。また、電子データと印刷物の役割分担について、引き続き工夫されることが期待できる。</p>

オ. 各種イベント・展示の実施運用及び模型貸出対応

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価
<p>・ JAXA が主催するイベント・展示等の実施、JAXA が関係する外部機関・団体との連携によるイベント・展示への出展協力、定期的な最新情報提供など、各種イベント・展示の企画から運營業務までの業務を行うこと。</p>	<p><u>○展示構成内容、展示手法の改善</u>                      展示会場や来場者層などを想定の上、展示内容構成を抜本的に見直した。従来 of 大型模型や造形物を中心とした構成から、映像中心の動きのあるコンテンツや体験型コンテンツ、写真撮影スポット用グラフィックなどを導入。                      ・開催実績</p> <p><u>○展示に合わせた委託業者による独自付加企画の実施</u>                      展示会場近隣の科学館等への協力要請を行い、JAXA 展示会場と近隣科学館との間で、情報補完や来場者の廻流など相乗効果を狙った展示を実施。</p> <p><u>○「宇宙の日／空の日」全国小中学生作文絵画コンテストの運営見直し</u>                      コンテストの価値を高めるための運営見直し（賞の数、位置づけなどの整理、運用体制の簡略化、受賞者以外の参加者へのメリット醸成など）を段階的に実施中。                      委託業者よりマスメディア連携強化策の提案があり、朝日新聞デジタルの協賛も実現した（一部経費削減につながっている）。</p>	<p>○省力化を図りつつも、印象に残る表示やコンテンツの創意工夫を積極的に行っている。引き続き、来場者が展示会場で得た情報をきっかけに、自らさらに情報を得ようとするアクションにつながる仕掛けなどの企画立案が期待できる。</p>

<p>・実施要項2(2)②カ.のJAXAシンポジウムについては、シンポジウム会場で行うアンケートの結果、6割以上から「とてもよい」「よい」等好評価を得ること。JAXAシンポジウムについては別紙6【4】の「(1)シンポジウムに参加して満足されましたか？」において<u>上位2段階で6割以上</u>を達成すること。</p>	<p>○アンケート結果</p> <p>JAXAシンポジウム2015及び2016の会場にて実施したアンケート調査の結果、以下の設問について上位2段階で6割以上の好評価を得た。</p> <p>なお、本アンケートにおける評価の選択肢が11段階であったため、中立の「5」より上位にあたる「6～10」を選択した割合とした。</p> <table border="1" data-bbox="603 488 1184 875"> <thead> <tr> <th>設問</th> <th>上位2つの割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「JAXAシンポジウム2015」に参加して満足されましたか？</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>「JAXAシンポジウム2016」に参加して満足されましたか？</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table>	設問	上位2つの割合	「JAXAシンポジウム2015」に参加して満足されましたか？	77%	「JAXAシンポジウム2016」に参加して満足されましたか？	73%	
設問	上位2つの割合							
「JAXAシンポジウム2015」に参加して満足されましたか？	77%							
「JAXAシンポジウム2016」に参加して満足されましたか？	73%							

カ. 宇宙機等打上げ広報活動

最低限満たすべき水準	実施事項（主なもの）	評価
<p>1) 人工衛星などの宇宙機及びロケット打上げにおいて、一般普及を目的とした各種印刷物、ビデオ等の製作及び打上げ放送並びに中継イベント等を実施すること。</p>	<p>○<u>新しいインターネット配信先チャンネルの追加</u></p> <p>Facebookライブ配信サービスが28年度より開始されたことを受け、委託業者より打上げ実況中継のインターネットライブ配信ツールとして新たに提案を受け・実施した。視聴者数の増加と話題性の拡散につながった。</p> <p>○<u>打上げダイジェスト映像提供の即時化・適時化</u></p> <p>人工衛星等の打上げ時のライブ中継映像のダイジェスト版を、これまでの打上げ後約1-2日での提供から、打上げ後4時間以内で提供、公開する体制、編集フローを構築。多くの人の関心が高まる機会での即時性、適時性を重視した対応が取れるようになった。</p>	<p>○打ち上げる人工衛星等に応じた内容、方策の最適化を図ることが一層求められている。外部媒体とのコラボレーション、外力活用した施策をより積極的に活用していくことが課題であり、今後も十分な対応が期待できる。</p>

### 3. 実施経費の状況及び評価（※金額は全て税抜）

(1) 市場化テスト実施以前（平成26年度）の経費実績

ア 平成26年度の実施経費 241,204千円※

(2) 現在の契約（平成27～28年度）の実施経費

ア 平成27～28年度の実施経費 426,342千円

イ 1年当たりの平均 213,171千円

(3) 市場化テスト前後の経費の比較

平成27～28年度実施経費の1年当たりの平均額と平成26年度実施経費の1年当たりの平均額との比較

213,171千円－241,204千円＝▲28,033千円（11.6%の減額）

(4) 検証

市場化テスト実施前（平成26年度）の実施経費と比較すると、平成27～28年度の1年当たりの平均額では28,033千円（11.6%）の経費の減少となった。

なお、経費の減少の多くは、宇宙機等打上げ広報活動に関する打上げ延期対応、打上げ機数および仕様内容の差異を要因とするものである。

※）平成26年度の実施経費を比較対象とした理由

市場化テスト実施以前の経費実績は、平成24と25年度に対し、平成26年度が一般経費削減のため約3割減となっている。この3年間の単年平均額をとった場合、差異が大きくなってしまふことから、平成26年度のみを比較対象とした。

### 4. 民間事業者からの改善提案による改善実施事項等

(1) 広報普及活動に関する質の向上

広報普及活動全般について、より良い運用やサービスに関する改善提案があり、業務の質向上につながっている。

具体的な事例は、以下のとおり。

- 1) JAXAコミュニティサイト「ファン！ファン！JAXA！」において、記者会見のライブ配信を実現し、国民に対して直接説明責任を果たす仕組みを構築した。さらに、視聴者から寄せられるコメントを公開し、国民の意見・要望を拾い上げる場としても機能させた、JAXA役職員の意識改革につながる波及効果ももたらした。
- 2) 多くの人々の関心が高まるロケット打上げの機会を、より効果的・効率的に活用するべく、打上げ後4時間以内に、打上げ実況中継のダイジェスト映像を編集・公開する体制と確認フローを確立するなど、よりタイムリーな情報提供と、視聴者の利便性の向上に寄与した。
- 3) 計5機の打上げが行われた平成28年10月から平成29年1月までの4カ月間、打上げ広報活動を着実に実施できる運用体制（打上げ延期の対応も見越した実施・運用体制）を確立し、安定した対応を継続した。

4) 宇宙の日作文絵画コンテストにおいては、委託業者による①マスメディア連携提案及び②同業者による連携協力企業の開拓が行われ、朝日新聞デジタルのメディアパートナー参画が実現した。同社ウェブサイトを活用した取り組みとして、作品募集告知だけでなく、作品制作の参考となる情報を集めた事前学習記事ページの掲載や、コンテスト表彰式の号外記事配信、全受賞作品デジタル掲載（これまでの作品集の冊子配布を取りやめ）などを実施した。これまでの「宇宙の日」ホームページ、コンテスト主催者ウェブサイトに加えて、朝日新聞デジタルウェブサイト利用者にも情報発信が拡大できたことから、応募作品の増（平成28年度は約13,400点。平成27年度約11,000点）や、受賞作品を多くの方に見てもらえる機会の拡大につながった。

## (2) 広報普及活動における業務の効率化

広報普及活動を、より効率的かつ効果的、経済的に実施するための対応を行った。

具体的な事例は、以下のとおり。

- 1) 展示物の運用管理業務において、廃棄処理候補物品や修理等要措置物品の提案を行うとともに、今後の広報活動で必要になるとと思われる展示物やグラフィックパネル等の提案も行い、限られた保管スペースを有効かつ効率的・経済的に運用するべく貢献した。
- 2) 全国の科学館等への情報提供事業において、連携先を当初の110館（平成27年4月時）から133館（平成29年3月末）に拡大し、のべ約2,000万人への波及効果が期待できる連携ネットワークを構築し、広報普及活動の成果の最大化（1館当たりの作業量を減）に貢献した。  
また、JSFが独自に展開している宇宙開発巡回展示等において、日本の宇宙開発の歴史や最新の活動や成果を積極的に紹介するなど、JAXAの広報活動に資する取り組みを自らの活動としても実施し、貢献した。
- 3) 宇宙の日 作文絵画コンテストにおけるマスメディアとの連携において、同社（朝日新聞デジタル）ウェブサイトへの受賞作品の掲載により作品集のペーパーレス化をもたらし、経費削減に貢献した。

## 5. 全体的な評価

### (1) 実施経費削減の観点

市場化テスト実施以前（平成26年度）の実施経費と平成27～28年度の1年当たりの実施経費とを比較したところ、上記3のとおり、年平均で28,033千円の経費の減少となった。

なお、経費の減少の多くは、宇宙機等打上げ広報活動に関する打ち上げ延期対応、打ち上げ機数および仕様内容の差異を要因とするものである。

### (2) 達成すべき質の達成状況

上記2のとおり各業務において確保すべき質と効率のいずれも達成していると認められる。また、民間事業者の創意工夫による改善提案がなされたことで、広報活動の工夫や業務運営が図られたことは評価することができる。

### (3) 競争性の確保の観点

市場化テスト対象となった現契約（履行期間：平成27～29年度）での入札において

は、実施要項への意見招請や過去の実施経費提示などの改善を講じたものの、結果は1者応札であり、競争性が確保されたとは言い難い結果となった。

そのため、当該入札において入札資料取得者（仕様書取得、説明会参加）が10者あったことや、また、前回契約（契約期間：平成24～26年度）での入札においては、別添2のとおり、3者応札かつ入札資料取得者は17者と、多くの者が入札参加を検討する状況であったことも踏まえ、さらに積極的な改善策を講じる必要がある。

評価方法については、JAXA内に設置している外部有識者で構成している契約監視委員会において、確認を行っている。

外部有識者からのコメントは、以下のとおり。

- ・実施経費の状況について、比較対象として26年度が平成24～25年度に対して一般経費削減により経費3割減としていることを踏まえると、平成26年度単年度を比較対象とすることは望ましい。
- ・実施経費の評価について、市場化テストのプロセスを要因とした経費削減であるとは言い難いため、誤解を招かないよう留意する必要がある。

## 6. 今後の事業

今回の入札においては1者応札となったが、次回の入札において競争性の向上を図るため、入札参加が期待される者への声かけと実施項目の詳細説明、公告期間の確保などの取り組みに努めることとし、市場化テストを継続して実施する。

以 上